

38 医学教育振興財団の活動^{*1}

小川 秀興^{*2}

はじめに

医学教育振興財団は1979年に文部省（当時）により設立認可された。わが国の医学教育を担う全医科大学・医学部82校が一般会員として参画し、医学教育の改善向上を目指す団体である。その目的は「日本並びに諸外国の医学教育（卒後の臨床研修を含む）の方向と実情とに関し、不断の調査研究を行い、その成果を医学教育機関に提供するなど、日本における医学教育の充実向上について寄与し、もって医学の振興と人類の福祉に貢献すること（定款第3条）」である。2013年には公益財団法人として内閣総理大臣より認定を受けた。

本財団の事業は次の通りである（定款4条）。

- 1) 医学教育に関する調査、研究及び資料の収集並びにその成果の医学教育機関に対する提供
- 2) 医学教育の方法の研究に関する助成
- 3) 医学教育機関の教職員及び学生に対する研修の実施及び援助
- 4) 医学教育資料の発行等医学教育機関から委託された事業
- 5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

以上の事業を推進するため、運営委員会、英国短期留学選考委員会、審査委員会を設置している。以下に財団の主な事業を紹介する。

1. 医学教育指導者フォーラム

本フォーラムは、医学教育の改善及び教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、各大学の医学教育に責任のある立場の者を対象に1987

年から開催している。医学教育の様々な問題をテーマとして取り上げ¹⁾ 議論を深めることとしており、全国規模の貴重なFDの機会となっている。

このフォーラムでは、諸外国の知見を参考にしつつ討論を進めることが特徴となっている。その構成は1) 英国など諸外国の講師による講演、2) 国内演者3名の話題提供、3) 総合討論、である。第1回～32回の講演者数は62名に上っている。その所属先を国別に見ると英国が最も多く26名、次いで米国21名、カナダ5名、日本4名、オーストラリア3名、ドイツ2名、イスラエル1名、タイ1名となっている。

コロナ禍の下、2020年度は中止したが、2021年度には初のオンライン方式（Zoomウェビナー）により開催した。第30回～32回のテーマや講師は表1の通りである。

2. 国内医科大学視察と討論の会

この会は、毎年国内の医科大学（医学部）1校を選び、医学教育システム、カリキュラム等について実地に視察見学し、医学教育の改善に資することを目的とする。第1回は1981年11月、筑波大学医学専門群で開かれた。これまでに39回を数えるが、2020年度と2021年度はコロナ禍の下、中止した。

視察と討論の会は2日間の日程で行われる。表2に第38回・第39回の概要を示す。第1日目は開催校の教員が講演を行い、その後講演のテーマごとに分かれて討論を行う。この討論に開催校の学生が加わり懇談するのがこのプログラムの特徴の一つである。また、岡山大学医学部で開催された第38回では「教育への学生参画の取組」と題して学生による講演が行われた。会には全国の医学部教員が集い、他大学のグッドプラクティスを共有する貴重な機会となつて

^{*1} Japan Medical Education Foundation

^{*2} Hideoki Ogawa 公益財団法人医学教育振興財団

表1 医学教育指導者フォーラム一覧（第30回～第32回）

開催日・テーマ	講師（所属は開催時）
第30回： 2018年7月24日（火） 明日の医学医療を支える人を選ぶ：入学者選抜	Professor Kevin Eva (Associate Director and Senior Scientist, Centre for Health Education Scholarship / Professor and Director of Educational Research and Scholarship, Department of Medicine, The University of British Columbia, Canada) Professor Sally Curtis (Professorial Fellow Education, BM6 Programme Leader, Faculty Widening Participation Lead, Medical Education, Faculty of Medicine, University of Southampton, UK) 山田 泰造（文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長） 大内 淑代（岡山大学医学部医学科長・入試委員長） 前野 哲博（筑波大学医学医療系地域医療教育学教授）
第31回： 2019年7月23日（火） 社会に開かれた医学教育	Judy McKimm (Director, Strategic Educational Development / Professor, Medical Education, Swansea University Medical School, UK) Sir Terence Stephenson (Nuffield Professor of Child Health, Institute of Child Health, University College London / Formerly Chair, General Medical Council, UK) 山口 育子（認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長） 中村千賀子（認定NPO法人健康と病いの語りDIPEX-Japan理事） 中村真理子（東京慈恵会医科大学教育センター教授）
第32回： 2021年7月14日（水） オンライン （Zoomウェビナー） 教育データに基づいたプログラム評価	Rodrigo B. Cavalcanti MD MSc (Associate Professor, Department of Medicine, Faculty of Medicine, University of Toronto / Director, HoPingKong Centre, University Health Network / Clinician Educator, Royal College of Physicians and Surgeons of Canada) 山田 剛史（関西大学教育推進部教育開発支援センター教授） 春田 淳志（慶應義塾大学医学教育統轄センター准教授） 奈良 信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）

いる。

3. 英国大学医学部における臨床実習のための短期留学

この短期留学は、卒前臨床教育の充実向上を図るため、本財団が推薦する日本の医学生が英国の大学医学部において4週間の臨床実習を行うプログラムである。1990年以来31回の派遣を行い、国公私立75大学から458名の学生が留学している³⁾。新型コロナウイルスの影響のため、2019年度は8名の派遣にとどまり、実習途中で帰国となった。2020年度・2021年度は事業中止となった。

この事業の嚆矢は1990年3月、レスター大学4名、ニューキャッスルアポンタイン大学4名の学生の派遣である。前年1月、レスター大学のキルパトリック医学部長とニューキャッスルアポンタイン大学のアンダーソン卒後教育部

長を本財団の医学教育指導者セミナーの講演者として招いた際、「キルパトリック氏に対するわが国の参加者からの英国における臨床実習の在り方についての質問、それに対する両氏の応答。それと対比的に日本の医学生は医師法に縛られてほとんど患者との接触を断たれているというような不自由さの強調が相次いだことから、畑水練ではない英国の臨床実習の実情の見学を許そう、いや、英国の学生と一緒に小グループを組み実地に体験する機会を与えようという好意的な提案に乗って実現の運びに至った」⁴⁾

この英国短期留学の修了者が執筆した報告書は毎年発刊・配布されている。多くの医学生がこの報告書を読み、次年度の短期留学に応募してくる。英国の医学生が自ら患者のもとに行き実習を行う姿を見て、日本の医学生も参加型の臨床実習の経験を積み上げている。

留学経験者と財団が連携して2019年7月の

表2 国内医科大学視察と討論の会（第38回・第39回）

開催日・開催校	概 要
第38回： 2018年9月13日(木) ・14日(金) 岡山大学医学部	1日目： 特別講演Ⅰ「医学教育の現状と課題」 文部科学省高等教育局医学教育課長 西田憲史 医学科カリキュラム概要説明 講演1「学年進行プログラム：プロフェッショナリズム・行動科学」 講演2「研修医レベルを目指した診療参加型臨床実習」 講演3「世界で活躍できる医学研究者・医療人育成を目指して」 講演4「教育への学生参画の取組」 学生との懇談 懇親会 2日目： 特別講演Ⅱ「医学教育の改革とその波及」 岡山大学医学部副学部長 松川昭博 総合討論 施設見学（自由参加）
第39回： 2019年9月5日(木) ・6日(金) 和歌山県立医科大学 医学部	1日目： 特別講演Ⅰ「医学教育の現状と課題」 文部科学省高等教育局医学教育課長 丸山 浩 医学科カリキュラム概要説明 講演1「学生教育と研究指導について」 講演2「地域枠学生及び医師のキャリア形成支援について ～卒前教育及び卒後教育～」 講演3「学生の視野を広げるための国際交流」 講演4「早期プロフェッショナリズム教育」 学生との懇談 懇親会 2日目： 特別講演Ⅱ「医療系総合大学を目指した本学の取り組み」 和歌山県立医科大学学長 宮下和久 総合討論 施設見学（自由参加）

日本医学教育学会大会で特別企画「日・英の医学教育の課題と展望 - 医学教育振興財団の英国短期留学の経験を通じて」を実施し、これまでの成果を総括し今後を展望した⁵⁾。

また、毎年、英国短期留学生同窓会が開催され、留学経験者のネットワークが形成されている。

4. 医学教育研究に対する助成

(1) 医学教育研究助成

医学教育研究助成は、医学教育の調査並びに研究を助成することにより、医学教育の改善に寄与し、もってわが国の医学教育の充実発展に

貢献することを目的としている。

研究助成金の交付については審査委員会で調査審議され選定される。財団の発足した1979年度からこれまでに180件以上の研究に助成を行っている⁶⁾。研究成果については毎年12月に研究助成報告会を開催している。

(2) 懸田賞

懸田賞は顕著な研究業績を上げ、医学教育の領域で一層の活躍が期待される若手研究者に授与される賞であり、1996年に本財団の初代理事長である懸田克躬氏の名前をとって創設された。これまでの受賞者数は

32名となっている⁷⁾。同賞の候補者の選考は日本医学教育学会に依頼している。選考結果の報告を受け、本財団理事長が決定し医学教育学会大会の際に本財団が表彰している。

5. 刊行物の発行

本財団では、財団機関誌『J.M.E.F.』を毎年刊行するとともに、「英国大学医学部での臨床実習のための短期留学報告書」、「国内医科大学視察と討論の会報告書」の作成、配布を行っている⁸⁾。

おわりに

以上のように、本財団においては2020年に始まる新型コロナウイルス感染症の影響下で中止を余儀なくされた事業もあるが、一方でオンライン方式による開催など新たな取組みを模索してきた。オンライン方式に対しては「参加しやすくなった」、「今後ともオンラインを継続してほしい」など様々な意見が寄せられた。これらの声も踏まえ、今後の事業展開に積極的に取組みたい。

■文 献

- 1) 過去のフォーラムのテーマ. <https://www.jmef.or.jp/wp/wp-content/uploads/forum-list.pdf> (最終閲覧日: 2021.9.30)
- 2) 国内視察と討論の会実施校一覧. <https://www.jmef.or.jp/schoollist/> (最終閲覧日: 2021.9.30)
- 3) 英国短期留学派遣の推移 <https://www.jmef.or.jp/wp/wp-content/uploads/suii.pdf> (最終閲覧日: 2021.9.30)
- 4) 懸田克躬. 英国の医科大学における臨床実習 J.M.E.F. 第15号152 財団法人医学教育振興財団
- 5) 第51回日本医学教育学会特別企画: 日・英の医学教育の課題と展望.
- 6) 医学教育研究助成授与者一覧 <https://www.jmef.or.jp/213-2/> (最終閲覧日: 2021.9.30)
- 7) 懸田賞受賞者一覧. <https://www.jmef.or.jp/178-2/> (最終閲覧日: 2021.9.30)
- 8) 刊行資料. <https://www.jmef.or.jp/document/> (最終閲覧日: 2021.9.30)